

第4学年 国語科学習指導案

日時 平成27年 9月18日(金) 6校時
児童 男8名 女7名 計15名
指導者 高橋 幸枝

- 1 単元名 二つの事例を対比し、「くらべてはっきり、子どもの暮らし」を発信しよう
教材名 「アップとルーズで伝える」 (光村図書 4年下)
補助学習材 「世界のともだち」各国シリーズ本 偕成社

<主となる指導事項>

◎目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。 【C読むこと イ】

<付けたい力>

・二つの事例が対比であることをとらえ、段落のつながりやまとまりを読む力

<単元を貫く言語活動>

二つの事例を対比し、違いをはっきりさせた「くらべてはっきり、子どもの暮らし」を発信する

2 単元について

(1) 児童について

これまでの説明的文章では、目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係に気付いたり、事実と意見を読み分けたりして、説明の工夫をとらえる学習をしている。3年の「すがたをかえる大豆」では、中心文の位置、段落の説明の順序から段落相互の関係を学び、選んだ食品を並列して書いた食べ物辞典をつくっている。4年の1学期「動いて、考えて、また動く」では、事実・解説と意見・主張との関係を考えて文章を読む学習をしている。そして、並行読書をしたノンフィクションの読み物で事実と意見を読み分け、筆者の主張をリーフレットにまとめ、教材文で学んだことを構築する活動をしてきた。また、写真と文章の対応は、「すがたをかえる大豆」や新聞作りで経験している。

日常においては、並列する文章は書くことがあっても、対比を意識した文章は、見られない。読書は、教材文と並行読書をすることで、児童が選択する図書のジャンルも広がっている。ペアやグループ学習は、抵抗なくするが、まだ自分の考えをもてないまま、話し合いに参加する子がいる。考えを出し合うことにとどまり、考えを深めるまで話し合いを進めることができないことが多い。

国語科意識調査をみると、調べ学習や新聞作り等、自主的・活用的な学びを、「好き・得意な活動」ととらえ、その力が付いたことを実感している児童が多い。しかし、話し合い・発表・音読が苦手と答える児童が多く、表現に自信がもてないでいる。

そこで、本単元では、外国の子どもの暮らしを対比して説明する言語活動を位置付けることで、事例を比べてはっきり伝えることができることを学び、ペアやグループ学習をしながら互いの考えを認め合い、主体的な言語活動を促しながら、自分の表現に自信をつけさせていきたい。

(2) 教材について

本単元は、8段落で構成された説明文である。映像や写真を撮るときに用いる「アップ」と「ルーズ」という二つの映像技法が、送り手の目的によって意図的に組み合わせられているということが説明されている。テレビの映像を通して、様々な情報を得ている児童にとって、大変興味深い内容であると考えられる。そして、物事を一つの方向から見るのではなく、別の方向からも見て説明することのよさが書かれている説明文でもある。1・2段落のまとめの3段落に問いの文、4・5段落に事実と説明、6段落で4・5段落をまとめ、それを受けて7段落に新聞の事例も加え、8段落で全体の「まとめ」をするという文章構成になっている。

分かりやすく説明するための工夫として、以下の点があげられる。

- ① 写真と文章を対応させて書き、文章をイメージしやすくしている。
- ② 1・2段落、4・5段落で、二つの事例を対比して説明することで、違いを明確に伝えている。
- ③ 二つの事例を受けて3段落と6段落で、まとめている。
- ④ テレビの映像の説明のあと、さらに新聞の事例を加えてから全体のまとめを書くことで、筆者の考えを強く伝えている。(尾括型)

本単元は、二つの事例を対比して書くことで、違いをはっきりさせて考えを伝えるよさを学ばせることができる。この対比に注目し、違いを並列すると、内容を分かりやすく伝えることができる、という説明のしかたのよさを学ばせていきたい。

(3) 指導について

本単元を貫く言語活動として、二カ国の外国の子どものくらしの対比と児童のくらしを対比させた「くらべてはっきり、子どものくらし」を位置付けた。その説明文を補助学習材の準備でお世話になっている一関市立図書館・花泉図書館の方に発信するという相手とゴールを意識させることで、児童の意欲が持続すると考える。また、児童は、自分でも違いをはっきりした説明文が書けることを実感し、意欲をもって学習に取り組むことが実現できる言語活動である。

指導にあたっては、単元に入る前に、段落を短冊にし、家庭学習で順番を考えさせる。この段落パズルをすることで、段落のつながりやまとまりを意識させる。

第一次では、題名から、「アップ」と「ルーズ」という二つの事例を対比し、違いをはっきりさせる説明文であることに気付かせる。そして、教材文の学びを、「くらべてはっきり、子どものくらし」の学習に活用する意欲を引き出すために、教師が作ったモデル文を提示する。その後、児童と共に学習計画を立て、並行読書をスタートさせる。補助学習材は、外国の子どものくらしについて書かれているシリーズの本を一人二冊用意して、読み比べさせる。

第二次では、教材文で学んだことを、「くらべてはっきり、子どものくらし」に活用させながら進める。まず、写真と文章の対応から、①～⑥段落までの段落のつながりをとらえさせる。写真と文章を対応させて説明することのよさは、次の単元の『クラブ活動リーフレット』を作ろうで、インタビューや自分で写真を撮るなどの取材を入れながら、学ばせるため、本単元では段落のつながりをつかむことを中心に指導する。そして、問いに対する答えの文を見つけ、書かれている内容を理解させる。①②段落と④⑤段落の二組が対比になっていることから、事例を対比しながら説明することのよさに気付かせる。⑦段落だけが、テレビの映像技法ではなく、新聞の写真について書かれていることに着目させ、その段落が書かれている理由を考えさせる。「アップ」と「ルーズ」という映像技法が⑦段落が入ることで、他の事例でも目的に応じて受け手に送られてくることを印象付け、対比したことをより分かりやすく、はっきり伝えようとしていることに気付かせたい。そして、「くらべてはっきり、子どものくらし」に、二カ国の外国の子どものくらしの対比を、より分かりやすくするために、児童自身のくらしを付け加え、教材文の学びを活用する。

第三次では、「くらべてはっきり、子どものくらし」が、子どものくらしの違いをはっきりわかる説明文になっているか、また、一関市立図書館・花泉図書館の方に分かりやすく伝える説明文になっているかを交流する。その後、友だちが選んだ本を読み、学習を振り返らせ、次の単元へ意欲をつなげる。

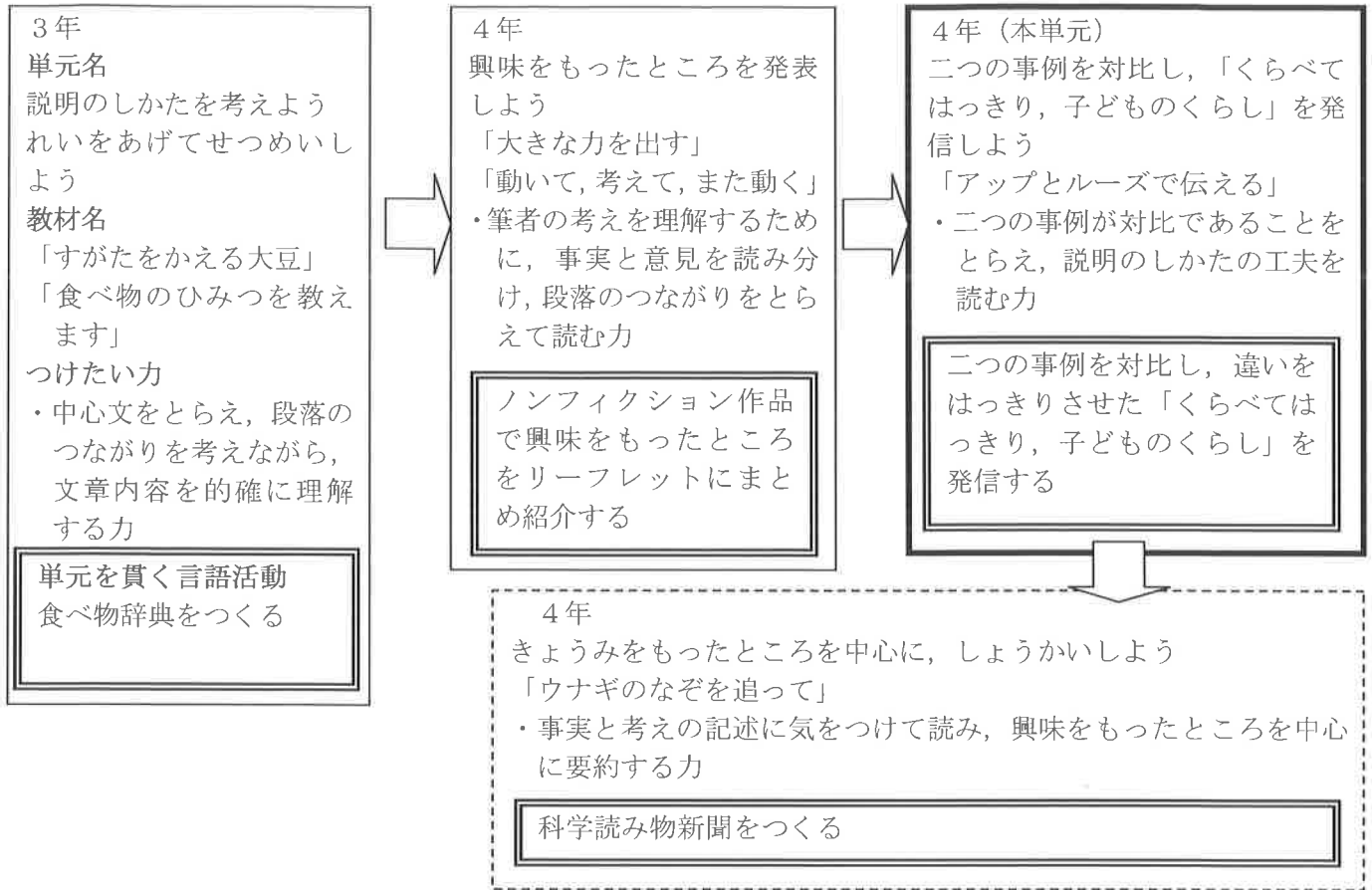
3 単元の指導目標

	指導目標
関心・意欲・態度	・話題に関心をもち、段落のつながりを考えながら、二つの事例を分かりやすく伝えようとしている。
読むこと	・写真と文章を対応させたり、二つの事例を対比させたりして、筆者がわかりやすく説明していることを読むことができる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うことができる。

4 単元の評価規準

	評価規準
国語への関心・意欲・態度	・外国の子どものくらしに関心をもち、二つの事例を対比してまとめた「くらべてはっきり、子どものくらし」を伝えようとしている。
読む能力	・二カ国の外国の子どものくらしと自分達のくらしを比べながら読み、事例を対比させることで違いをはっきり分かることをとらえている。 (イ)
言語についての知識・理解・技能	・「しかし・でも」が逆接に使われる接続語であることや、「このように」が前の段落をまとめていることを理解し、使っている。 (イ (ク))

5 系統的な学習の流れ



6 単元構想（全9時間）

次	時間	ねらい ・ 主な学習活動	評価規準	指導上の留意点
第1次	①	<p>「アップとルーズで伝える」で学んだことを「くらべてはっきり、子どものくらし」で活用するという学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 題名から「アップ」「ルーズ」とは何か、それで何を伝えるのかをとらえることを知る。 ・ 二つの物事を比べた経験を出し合う。 ・ 比べてみたい事柄を發表する。 ・ モデル文を提示し、学習の見通しをもち、学習計画を立てる。 	<p>【関】話題に興味をもち、二つの段落を対比して、内容を読もうとしている。[観察]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭学習で、段落パズルをし、段落のつながり・まとまりに興味をもたせてから、本単元の学習を始める。 ・ 教師がつくったモデル文を提示し、学習の見通しをもたせる。 ・ 教材文で、筆者の伝えたいことをどのように説明しているのかを学び、自分の説明文に活用するという学習の見通しをもたせる。
第2次	②	<p>「アップとルーズで伝える」を読み、段落どうしの関係から、筆者の説明のしかたを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全文を読み、「アップ（赤線）」と「ルーズ（青線）」という言葉に線を引く。 ・ ③～⑧段落は、「アップ」「ルーズ」「アップとルーズ」のどれについて説明しているのかを考える。 ・ ①②段落は、何について説明しているのかを考える。 ・ ③段落と⑥段落は、①と②段落、④と⑤段落のまとめの役割をしていることに気付かせる。 ・ 問いの文と答えの文をさがす。 	<p>【読】文章全体の構成をとらえている。[発言・記述]</p> <p>【言】「このように」の接続語は、前の段落をまとめるときに使われることに気付いている。[観察]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問いの文をさがし、「アップとルーズでは、どんな違いがあるのか」を説明する文章であることを気付かせる。 ・ ③段落は①②段落のまとめであり、「問いの文」が書かれていること、⑥段落は、「このように」の接続語から④⑤段落のまとめになっていることから、段落

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">活用</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">活用</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">活用</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">活用</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第3次</p>		<ul style="list-style-type: none"> 外国の子どものくらしの本を2冊以上読み、驚いたことに付箋を付ける。 自分のくらしと比べながら読む。 		<p>のまとまりをとらえさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①②段落は、アナウンサーが話すような書きぶりになっていることから、読者にテレビ放送をイメージしやすいように、していることに気付かせる。
	③	<ul style="list-style-type: none"> 4枚のどの写真に、どの段落の文章が合うかを考える。 写真と文章を対応させて説明していることをつかむ。 3年に学習した「すがたをかえる大豆」を思い出し、写真と文章を対応させて説明することのよさを考える。 	<p>【読】写真と文章を対応させながら読むと、内容をイメージしやすくなることに気付いている。[記述・発言]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教材文と同様に、選んだ本も、写真と文章を対応させて説明すると、文章をよりイメージしやすくなり、内容を理解しやすくなることをとらえさせる。
	④	<ul style="list-style-type: none"> ①②段落に書かれている、「アップ」と「ルーズ」に映されている場所や映っていることを対比する。 ④⑤段落の事実と説明を読み分け、伝えられる事実と解説の文章、伝えられない事実と解説の文章を抜き書きして対比する。 二つの国の子どものくらしの違いをはっきりさせるために対比しながら読む。 一冊目の外国の子どものくらしの本を読んで、驚いた事実を抜き書きする。 	<p>【読】段落を対比して読み、段落のつながりやまとまりをとらえている。[記述・発言]</p> <p>【言】「しかし」「でも」の接続語が、文と文とのつながりに果たす役割を理解している。[記述・発言]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ④⑤段落は、伝えられることと伝えられないことという映像方法の違いをはっきりさせて説明していることに気付かせる。 ⑥段落から、「アップ」と「ルーズ」の違いは、伝えられる事実と伝えられない事実があることを確認する。 2冊の本を選ばせ、くらしの相違点に着目させながら読ませる。
	⑤	<ul style="list-style-type: none"> ④⑤段落の文章の中にも対比があることを知る。 接続語「しかし」と「でも」の後に書かれている文章に着目し、分かることもあれば分からないこともあり、それぞれを補っているのが「アップとルーズ」の映像技法であることをとらえる。 ⑥段落と同じことが書かれている段落を見つける。 二冊目の外国の子どものくらしの本で、驚いた事実を抜き書きする。 		
	⑥ 本時	<ul style="list-style-type: none"> ⑥段落までは、テレビの映像、⑦段落は、新聞の写真であることを確認する。 ⑦⑧段落の内容と段落の役割を考える。 ⑦段落がない教材文と本文を比べる。 筆者はなぜ⑦段落を入れたのかを考える。 二つの国の子どものくらしの対比を、より違いをはっきり説明するためにはどうしたらよいか、考える。 自分の事例を付け足すと、より違いをはっきりすることに気付く。 	<p>【読】新聞の事例の⑦段落は、対比の強調やテレビの映像技法を一般化する役割があることを理解している。[記述・発言]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑦段落があるから、⑧段落の伝えたいことの根拠が、より確かなものになり、筆者の主張がより多くの人に伝わることをとらえさせる。 さらに自分の事例を加えることでより比べたいこと強調されることに気付かせる。
	⑦	<ul style="list-style-type: none"> 二つの国の子どものくらしを比べて読み、驚いたことで伝えたいことをまとめる。 	<p>【言】指示語や接続語が文や段落の関係を示す手がかりになることを理解し、使おうとしている。[記述・発言]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「アップとルーズで伝える」で学んだことが活用できた成就感をもたせる。
⑧	<ul style="list-style-type: none"> 二つの国の事例にさらに自分のことを比べながら驚いたこと、伝えたいことをまとめる。 		<ul style="list-style-type: none"> 取り上げていないくらしの違いで驚いた事なども交流させる。 	
⑨	<ul style="list-style-type: none"> 外国の子どものくらしについて、比べて分かったことを交流する。 友だちが読んだ本を読む。 学習を振り返る。 	<p>【関】比べて分かったこと、感想を伝え合っている。[記述・交流]</p> <p>【関】本単元で身に付けた力を実感し、今後の学習への意欲をもととしている。[発言・記述]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一関市立図書館・花泉図書館の方に送り、感想をいただくことで、成就感をもたせる。 	

7 本時の指導（6／全9時）

(1) ねらい

筆者は、「アップ」と「ルーズ」の映像技法の違いをよりはっきりさせるために、新たな事例を並列して説明していることを理解することができる。

(2) 展開

階段	主な学習活動 課題とまとめ 中心発問 ○児童の反応	指導上の留意点 ◇評価規準
つかむ 2分	1 学習課題を確認する。 ・前時の①②段落と④⑤段落の関係を想起する。 ・対比とは、二つの事例を比べて違いをはっきりさせることであることを確認する。 ⑦⑧段落は、対比なのだろうか。	・本時の学びを児童の言語活動に活用することを伝える。 ・①②段落、④⑤段落が対比の関係であるならば、⑦⑧段落も対比の関係にあるのではないか、という課題を児童に提示することで、本時も対比について考えることを意識させる。
ふかめる 33分	2 学習課題を解決する。 (1) ⑦⑧段落に書かれていることは何かを考える。 ○⑦段落は、新聞のことが書いてある。 ○⑧段落には、アップとルーズのまとめが書いてある。 ○対比ではない。 (2) ⑦段落の必要性を考える。 ⑦段落は、なくてもよいのではないか。 ・教材文と⑦段落がない文を読み比べる。 ・⑦段落がない場合の文章で気付いたことを書く。 ○⑧段落の内容にも⑦段落のことが書いてある。 ○⑦がないと説明が足りない。 ○⑦段落は、⑥段落までのことと⑧段落をつないでいる。 (3) なぜ筆者は、⑦段落を入れたのかを考える。 ・一人学びのあと、ペア・グループ学習をする。 ○テレビの映像だけでなく新聞の写真でもアップとルーズが使われていることを伝えたかったから。 ○テレビと新聞と書くと、読む人が信じてくれるから。 ○いろいろなものをみている人のことを考えているから。 ○テレビだけでなく新聞を読む人もいるから。 ○他にもインターネットやちらしでも使われていることに気付かせるため。 3 学習のまとめをする。 筆者は、新聞の写真の事例を付け加えることで、①さらにちがいをくらべてはっきりさせることができること②他の場面でも、アップとルーズが使われていることを伝えている。	・家庭学習で、⑥⑦⑧段落にくり返し出てくる言葉や文章に線を引かせておく。 ・対比した後にさらに事例を並べる段落のつながりについて考えさせる。 ・⑦段落があることから、⑥段落のまとめの文をさらに強調し、③段落で伝えたいことの根拠がより確かなものとなり、筆者の考えがより分かりやすくなることに気付かせる。 ・テレビを見る人や新聞を読む人の立場で映像や写真の効果について考えさせる。 ・書けない子が多い場合は、ペア・グループ学習に切り替える。 ・⑦段落は、アップとルーズの映像技法は、テレビだけでなく新聞の写真や他のメディアにも使われていることや目的に応じて使われていることに気付かせる。 ◇新聞の事例の⑦段落は、対比の強調やテレビの映像技法を一般化する役割があることを理解している。[記述・発言]
ひろげる 10分	4 「くらべてはっきり、子どもの暮らし」に、二つの国以外の子どもの暮らしを付け加えるかどうかを考える。 ・二つの国の暮らしの違いをはっきりさせるために、自分自身の暮らしの事例を付け加える。 5 学習を振り返る。 6 次時の学習内容を確かめる。	・取り上げた二つの事例は、二つの国のことだけではないことを表せるか、追加するには、どの国のことを入れたらより違いがはっきりするか、を考えさせる。 ・本時で学んだこと、気付いたことを振り返らせる。

10 補助学習材

	本の名前	著者	出版社
1	世界のともだち ルーマニア アナ・マリアの手づくり生活	長倉 洋海	偕成社
2	世界のともだち 韓国 ソウルの下町っ子ピョンジュン	斐 昭	偕成社
3	世界のともだち ブラジル 陽気なカリオカ ミゲル	永武 ひかる	偕成社
4	世界のともだち フィンランド 幸と森の国のカオリ	松岡 一哲	偕成社
5	世界のともだち モンゴル 草原でくらすバタナー	清水 哲朗	偕成社
6	世界のともだち アメリカ 西海岸の太陽とコリン	鈴木 智子	偕成社
7	世界のともだち ネパール 祈りの街のアヌスカ	公文 健太郎	偕成社
8	世界のともだち ケニア 大地をかけるアティエノ	桜木 奈央子	偕成社
9	世界のともだち バングラディッシュ わんぱくアシフと青い自転車	石川 直樹	偕成社
10	世界のともだち フランス おしゃれ大好き！プリュヌ	MIKA POSA	偕成社
11	世界のともだち ベトナム ふたごのソンとチュン	鎌澤 久也	偕成社
12	世界のともだち カンボジア スレイダー家族と生きる	古賀 絵里子	偕成社
13	世界のともだち メキシコ 織物の町の少女 リセット	長倉 洋海	偕成社
14	世界のともだち 南アフリカ共和国 シフィウェ夢のサッカー選手	船尾 修	偕成社
15	世界のともだち タイ バンコクの都会っ子 ヌック	ERIC	偕成社
16	世界のともだち ペルー アマゾン生まれのウリーセヌ	鈴木 智子	偕成社
17	世界のともだち イスラエル 小さな芸術家 シラ	村田 信一	偕成社
18	世界のともだち パレスチナ 聖なる地のルールデス	村田 信一	偕成社
19	世界のともだち インド アルナブ世界をめざす	桃井 和馬	偕成社
20	世界のともだち フィリピン 棚田の村のネリ	石川 直樹	偕成社
21	世界のともだち ブータン リクソルと伝統の暮らし	齊藤 亮一	偕成社
22	世界のともだち 中国 ニーハオ！わたしはチューチン	片野 田斉	偕成社
23	世界のともだち イギリス 元気にジャンプ！ ブルーベル	加瀬 健太郎	偕成社
24	世界のともだち トルコ エブラールの楽しいペンション	林 典子	偕成社